

## 令和7年度第2回逗子市健康増進・食育推進計画懇話会 議事概要

### 1 会議の名称

逗子市健康増進・食育推進計画懇話会

### 2 会議を主管する課かい

逗子市福祉部国保健康課

### 3 開催日時

令和7年10月3日（金）午後2時00分から午後3時30分まで

### 4 開催場所

逗子市役所5階 第3会議室

### 5 出席者（敬称略）

(1) 市民メンバー 村松 雅、渡邊 喬

(2) 関係団体 中川 晴美（公益財団法人逗子市スポーツ協会）、

村田 まみ（逗子市食生活改善推進団体 若宮会）、

熊谷 啓明（逗子市立中学校長会）、

川畠 明日香（鎌倉保健福祉事務所）

(3) アドバイザー 北岡 英子（湘南鎌倉医療大学 看護学部公衆衛生看護学領域 教授）、

駿藤 晶子（神奈川県立保健福祉大学 保健福祉部栄養学科 准教授）

(4) 事務局 逗子市国保健康課 小上馬課長、青山副主幹（成人健康・地域医療担当）、山下副主幹健康係長事務取扱、  
健康係 角田主査、岡田主事、武藤主事

### 6 会議の公開、非公開又は一部公開の別

公開

### 7 傍聴人の人数

0人

### 8 会議資料

（資料1）健康増進計画・食育推進計画における評価のための視点

（資料2）令和7年度 国保健康課における健康増進・食育推進に係る取り組み

（資料3）各課関連する取り組み

（資料4）ずし健康食育プラン（健康増進・食育推進計画）計画の位置づけ

（資料5）逗子市総合計画（抜粋）

（資料6）2024年（令和6年度）逗子市地域福祉計画進行管理表

### 9 審議経過

#### ○ 議題（1）健康増進・食育推進計画に基づく取り組み状況について

事務局から、資料1、2、3に基づき令和7年度の取組について報告したところ、次のとおり意見があつた。

＜逗子市スポーツ協会＞

- ・料理教室をきっかけにトレーニングルームを継続利用していただいている。トレーニング室スタッフ同伴で料理教室へPRを行ったことでつながった。
- ・スポーツの祭典は、地域のスポーツ推進員の希望で春開催となった。前年比、参加者増となった。

今後取り組むテーマ3つにそって、今年度取り組んでいること、次年度取り組む予定などの情報提供、意見交換があった。

① もっと身边に運動を

<逗子市スポーツ協会>

- ・10月13日に体力測定会を実施する。スポーツに関心を持ってもらう仕組みづくりを意識している。
- ・健康相談では「太りたい」相談も多い。本人の様子に合わせて提案している。「眠れない」とメンタルの不調をきたす方もいる。
- ・内容によって市の未病センターを紹介することもあり、市とアリーナ両輪でサポートを続けていきたい。

<市民メンバー>

- ・近所の顔見知りを運動に誘うが、なかなか難しい。運動をきっかけに同じ活動をしている人は話も広がりやすい。スタッフだけでなく、参加者間で交流できると良い。逗子アリーナが市民交流の場になっている。
- ・料理教室のメンバーで、歩くイベントを計画中である。共通の楽しみが分かり、輪が広がりやすいと感じる。

<逗子市立中学校長会>

- ・体育祭は春に実施している。今の中学生は、小学生時代に新型コロナウイルス感染症により外遊びを制限された時期があった。そういう背景も関係し、体育に苦手意識を持つ児童がいる。「みんなが参加できる体育祭」を目指して子どもたち主体にすすめている。

<鎌倉保健福祉事務所>

- ・働き盛り、日中働く方の運動の課題にどう取り組むか難しい。

<市民メンバー>

- ・近所の方を「おでかけウォーク」へ誘ったが、気乗りしないとのことで断られてしまった。次に会った時に、別の方法で勧誘できることを考えている。
- ・ピックルボールは急激に、人気が上がっている。猛暑で屋外競技が難しい時にも楽しめる。今年うみかぜクラブの企画として始めて、徐々に増やそうとしていたところであり、良いタイミングでゲットキャンペーンの賞品になった。こういったニュースポーツからスポーツを始めてもらえたらい。

<事務局>

- ・メディアでもピックルボールが取り上げられている。障がいのある人や、引きこもり傾向の人にも向いていると紹介されていた。

② 自分のからだを知ろう

<逗子市スポーツ協会>

- ・適正体重を保つことが大事だと思う。相談者は体重、高血圧、高脂質等、様々な問題を抱えているが、

可視化は重要で、「朝体重計にのること」「前の日の行動パターンを思い出すこと」を伝えている。来場時に「どうですか」と声をかけ、伴走するように心がけている。

＜市民メンバー＞

- ・健康診断は、もう受けなくて良いかなと思った時期もあるが、「大丈夫だ」と毎年確認することが大切だと気付いた。「安心だと確認するために、毎年受けたほうがいい」と高齢者には伝えると良いのではないか。

### ③ 望ましい食生活を実践しよう

＜逗子市食生活改善推進団体 若宮会＞

- ・男性料理教室は、グループによって雰囲気は様々である。今年度、運動へつなげる活動として、アリーナ職員に来てもらった。調理中に「運動」「口腔」の大切さも関連付けて、伝えるようにしている。
- ・昨年、夏休み親子教室を開催したところ、口コミのみで予約者が多かった。今年度同じ内容を逗子小学校で実施するが、開催 1 週間前でも集まりが悪く、LINE 発信を依頼した。広報の方法で電子媒体の有効性を実感した。

＜逗子市立中学校長会より＞

- ・「給食室からこんにちは」は、毎日作成し、教室に 1 枚ずつ配布し、放送委員が読み上げ、みんなで食べながら聞いている。給食の内容以外にも、季節の食べ物の話題などもある。
- ・子どもたちは、野菜の残食率が高い。
- ・中学校給食は、食缶方式になり、温かくなり大変おいしい。出汁もカツオや昆布などから作られ、素材は国産にこだわり、地産地消も意識していると聞いている。国の産業を学ぶきっかけにもなっている。

＜鎌倉保健福祉事務所＞

- ・昨年から 3 年間の取り組みとして「共食」に取り組んでいる。国・県の計画に記載があり、高齢化率の高い地域でもあるため共食の大切さを伝えていきたい。
- ・「やせ」については、今年女子高生に健康教育を行い、そこで事前アンケートを実施した。「理想の体重は？」の問いに、平均回答が BMI18 以下であり、半数以上が BMI18 以下を望むことがわかった。健康的な BMI は 22 であり、女性のやせは妊娠出産への影響が、様々あることがわかっている。若年層に向けた「適正体重」のアプローチの必要性を感じた。
- ・働く世代向けの健康教育では、高齢の方も増えており、フレイル予防も大事になっている。逗子市はいろいろな場所で様々な取り組みをしていて良い。

＜市民メンバー＞

- ・「沼間中学校での味噌づくり」が今日の朝日新聞に掲載されていた。詳しい内容を教えてほしい。

＜逗子市立中学校長会＞

- ・市に多額の寄付があり、各校体験活動に使う予算がついた。例年味噌づくりは授業でやっていたが、今年度は大豆から味噌を仕込み、味噌汁を作って試食する実習もできた。

＜北岡アドバイザー＞

- ・現状の取り組みよくわかった。資料の作り方・見せ方について、資料 2・3 で重複しているものがあったり、項目が違ったりしているため統一したほうが良い。事業の所管課は記載不要である。市民目

線で分かりやすくまとめるほうが良い。

- ・イベントは、実際にもっとたくさんあるはずである。取り組みが漏れてしまうことがもったいない。  
市の事業に限らず、イベントをまとめて実績としてとりまとめるのはどうか。発信していくことで広報になる。情報の集約をしていただけるとよい。

＜駿藤アドバイザー＞

- ・「夏休み親子料理教室」や「給食」そのものも、取り組みの中に入るのでないか。
- ・普段運動していない人のほうが細く長く継続する。という話は納得した。運動経験者は、ウォーキングで程度では物足りず、強度を上げすぎて体を痛めてやめてしまう。アドバイスや伴走をしてくれる存在があると良い。

○ 議題（2）今後の健康増進・食育推進計画の進行管理について

事務局から、資料4、5、6に基づき、次年度以降の進行管理について、次のとおり説明した。

- ・総合福祉計画の4つの具体的施策に沿って、進捗状況を報告し、意見をいただく、従来の形に戻す
  - ・「地域自殺対策の推進」については、逗子市自殺対策計画推進懇話会での進行管理となる
  - ・「地域医療体制の推進」については、逗子の地域医療検討会などで協議を続けていたが、検討会での協議が一旦終了したため、次年度以降は本懇話会にて進捗管理をしていく予定。
- また、総合的病院の誘致について、これまでの方針を転換し、「逗子市に総合的機能を有する病院の誘致を促進する条例」の廃止に至った経緯について説明した。

以上